

林業福島

No. 568

題字 福島県知事 佐藤雄平



Fight!
Fukushima! がんばろう
ふくしま!

12 2011

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■里山の冬支度



森林生態系における 放射性物質について

学習院大学理学部教授
村松 康 行

私はもともと放射化学や環境地球化学という分野の研究を行ってきました。また、チェルノブイリにも二度ほど調査に行った経験もあります。そのような経緯から、三月末に福島県農林水産部からアドバイザーを依頼され、主に農耕地の汚染の把握や農作物への移行低減化について、農業総合センターの研究者の方々と一緒に研究を行っております。また、森林については五月一日に林業研究センターを訪れて以来、一緒に研究を始めました。

林業研究センターには二〇年ほど前にキノコの採取で訪れたことがあります。その当時私は、日本の様々な場所のキノコに含まれる放射性セシウムの濃度を調べていました。今回の事故が起こるずっと以前から、核実験の影響で放射性セシウムは世界中に降り注いでおり、キノコはセシウムを濃縮しやすいことが知られています。

福島第一原子力発電所の事故は三月に起こったため、その時葉が茂っていた常緑樹林と葉がなかった落葉樹林では汚染の状況が大きく異なります。つまり、落葉樹林では放射性物質の多くは、降雨などにより地面に移行し、リター層(落ち葉層)に保持されています。一方、常緑樹林では放射性物質の多くが樹冠に付着しました。それが降雨や落葉により、徐々に下に落ちてきています。リター層に溜まった放射性セシウムは粘土分などが多い土壌と違い動き易く、キノコの菌糸に取り込まれたり、草木の根から吸収されます。草木に取り込まれたものは、落葉などにより再び森林土壌に戻り、それが繰り返されます。キノコは森林生態系における放射性セシウムの循環に重要な役割を占めています。キノコを食べる動物(猪、鹿など)にも取り込まれます。また、キノコは森林の物質循環における分解者としても重要な役割を担っています。森林は食料生産の主たる場ではありませんが、水源や木材の生産において重要であるため、放射性セシウムがそこでどう分布し、また外部に出て行くかなどについて調べることは急務であります。

森林の除染は残念ながら簡単ではありません。国が早急にしつかりとした方針を決め取り組まなくてはならない課題です。まずは放射線の測定をし、きめ細かいデータを取り、汚染状況を把握する必要があります。そのようなデータは対策を行う上でも、また、風評をなくすためにも重要です。もとの環境を取り戻すには長い時間はかかりますが、着実に調査、研究を進めていく事が大切だと考えます。

《も く じ》

とびら	木の施設..... 6
森林生態系における放射性物質について	林道を訪ねて3,000kmシリーズ (第2回)
学習院大学理学部教授 村松 康行..... 1	滝川西線との出会い..... 7
森林の除染に関する基本的な考え方について... 2	普及指導員通信..... 8
第36回福島県林業祭「林業復興応援イベント」と	◆ 木材市況・ふくしま東西南北..... 9
「林業復興シンポジウム」が開催されました!	木連だより..... 10
..... 3~4	森連だより..... 11
“ふるさとの森”絆づくり”を開催しました... 5	林協ニュース..... 12
	はなしのひろば..... 13

森林の除染に関する基本的な考え方について

福島県森林計画課

1 はじめに

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、本県の森林、林産物等は放射性物質で汚染され、県民の日常生活に多大なる影響を与えるとともに、林業等の生産活動、森林での野外活動の制限や風評被害などにより甚大な被害を受けていることから、森林の除染を計画的に進める必要があります。

このため、県では森林の除染を効果的に進めるため除染基本方針の策定作業を進めており本誌が読者の皆様のお手元に届く頃には既に定められている予定ですが、現在は素案の段階であり、その内容を含めてお知らせします。

2 除染の実施主体

放射性物質汚染対処特措法による除染の対象となるのは追加被ばく線量年間一ミシーベルト

以上の区域となっております。そのうち、警戒区域・計画的避難区域については国が実施し、それ以外は市町村が除染実施計画を策定し実施することとなります。

県は、市町村による計画策定・実施が円滑に進むよう支援するとともに、県営林等の除染に取り組みます。

3 除染の目標

森林については、県民等の被ばく線量の軽減を図るため、放射性物質の移行による空間線量率の変化に留意して、計画的に除染を進めることにより、追加被ばく線量が年間一ミシーベルト（空間線量率〇・二三マイクロシーベルト/時）以下となることを目指します。

森林土壌等の放射性物質濃度の目標値については、試験研究等の知見を得ながら、今後の追加を検討します。

4 除染の実施

森林の除染については、住居等近隣の森林を最優先に行うこととし、さらには次のような森林について地域の意向や森林の機能を考慮し、重要性・緊急性に応じた優先順位により計画的な実施を検討するものとします。

- 生活環境保全林、森林レクリエーション施設など保健休養のための森林
- 人工林、有用広葉樹林など林業生産のための森林
- 水源となる森林

また、除染方法については、国のガイドラインに記載された落葉等堆積有機物の除去、枝葉等の除去によるものとし、その他の方法として林外搬出を前提とした下刈り、除伐、間伐等による効果的・効率的な方法について試験研究を実施しているところであり、除染技術の開

5 おわりに

発状況を踏まえつつ、利用目的及び樹種を勘案して総合的に検討することとします。

県は、森林内の空間線量率の調査を皮切りとして、各種調査・試験研究を行ってきたところであり、森林の除染を効果的・効率的に実施するため、引き続き汚染実態の把握に努めるとともに除染技術の確立に向けた試験研究や実証試験に取り組み先導的な役割を果たします。

また、森林面積は広大であるとともに環境、財物、生産活動の場など多様な側面を持つ森林の除染は重要であり、生活圏の除染のみでは不十分であることから、除染の財源の追加配分を国に求め森林の除染等を推進します。

第36回 福島県林業祭

「林業復興応援イベント」と「林業復興シンポジウム」が開催されました



(写真3) 丸太切り体験も順番待ち



(写真2) ホルンの体験。上手に吹けたね♪



(写真1) テープカット



(写真4) 大人も子供も集中しています☆



(写真7) 山際シェフのきのこ料理の試食中♪



(写真6) すばらしい木工作品にびっくり!!



(写真5) 糸鋸加工体験。何ができるのかな♪

郡山市安積町の福島県林業研究センターにおいて、平成23年10月22日(土) 9:30~16:00まで「林業復興応援イベント」が、併せて「林業復興シンポジウム」がホテルバーデンにて開催されました。今年時は折雨模様でしたが、1,300人の来場者がありました。

● 福島県林業研究センター本館前で、「鹿狼アルプホルン倶楽部」の森のコンサートと、県産材の小屋根組からの餅まきが午前と午後2回行われ、子供たちも大きなホルンを上手に吹いて楽しく体験、餅もたくさん拾って盛り上がりました。森のオークションでは、県内の珍しい木製品などが出品され、販売代金は「緑の募金」に寄付されました。(写真1~2)

● 製作体験コーナーでは、「三島町生活工芸館」の桐を使ったキーホルダー製作、「石森竹細工店」の竹細工の体験・実演・販売、「ハーブとスローライフ研究家 瀧田勉氏」のハーブの苔玉づくり、「櫛工房」の糸鋸加工の体験・実演・販売、「NPO法人福島県もりの案内人の会」の小枝を使った工作体験、「福島森林管理署」の丸太切り体験とパネルの展示等があり、皆さんとても集中して体験していました。(写真3~5)

● 展示館では、林業研究センターの公開と研究成果展示、木工作品コンクールの入選作品の展示(写真6)、グリーンアドバイスや林業相談コーナーも設けられました。

● 研修本館では、「山際食彩工房」代表の山際博美シェフによるきのこ料理教室が2回あり、かす漬け・白和え・リゾット・スープの試食はたくさんのお客さんに大好評でした。(写真7)

当協会ではパウチによる「しおり」づくり体験を行い、今年はぬりえをメインにしおりを作りました。色鉛筆、マジックインキ、スタンプを使って、子供たちやお母さんが楽しく体験していました。(写真8、9)

林業関係の被害と復興に関する展示等もあり、パネルの



(写真10) 震災後の地域工務店の取組み等のパネル展示



(写真9) 親子でぬりえを楽しんでいます♪ (パウチコーナー)



(写真8) パウチのしおりづくり、最初のお客様♪



(写真13) ずらり並んだ展示販売コーナー



(写真12) トントンと、野鳥も喜ぶ巣箱作り



(写真11) 木の温もりを感じる人形♪



(写真16) 第1部の講演を熱心に聴講している参加者



(写真15) 村松 康行氏 (学習院大学理学部化学科教授)



(写真14) 田中 敦夫氏 (森林ジャーナリスト)

前で熱心に話をされている人の姿も見られました。(写真10)

● 展示館裏では、森林にまつわるビンゴゲーム、木製品・漆器等の展示販売、ペレットストーブ等木質バイオマス関連の実演展示がありました。木目の美しさ、漆の色艶、やわらかな木の暖かさが伝わりました。(写真11)

● 農林産物等展示販売コーナーには19店が出展し、林業機械の展示や木工品の販売、こんにゃく、みそ、山菜加工品等の販売と、多くの店が元気な声で接客していました。飲食コーナー6店では、多くの人が舌鼓を打っていました。時々雨に合いながらも、皆さんお目当てのブースへ移動していました。(写真12、13)

● ホテルバーデン「吉祥の間」で開催された林業復興シンポジウムは、午前が2つの講演、午後はパネルディスカッションという2部構成でした。

講演1では、田中敦夫氏(森林ジャーナリスト)により、福島の林業の問題点と利点、林業・木材産業の2つのベクトル(※)、新たな木材需要、新林業に取り組む実例などの説明がありました。ピンチはチャンス、県の後押しも必要です。とも話されました。(写真14)

講演2では、村松康行氏(学習院大学理学部化学科教授)により、常緑樹林と落葉樹林では放射性物質の汚染状況が大きく異なることや、キノコの本体である菌糸部分に多くの放射性セシウムが存在し、それが森林生態系における放射性セシウムの循環に重要な役割を占めていると推定される。という話がありました。(写真15)

質疑応答では、針葉樹の今後や飯館村の除染について、幼齢木の放射線の影響、放射線検出器サーベイ・メータでの感知について等の質問が出され、自然界に存在する元素としてのセシウムの話と、サーベイ・メータは機械ごとに違いがあり、3割くらいの差が出る。等の回答でした。(写真16)

(※)ベクトル…大きさと方向をもった量。速度・力。



木のネームプレート (福島県の形) を下げて記念撮影

観察会に汗を流したあと、被災され仮設住宅等に避難されている方々との交流を深めるため、ケヤキの復興記念植樹や参加者全員と多くの女子

今回は、午前中、育樹作業や自然

今年で九回目となる「うつくしま育樹祭」は、県民一人ひとりが緑の大切さを理解し、森林に親しむことで「心の安らぎ」や「心の拠り所」としての緑を感じ、うつくしい故郷「ふくしま」を一日も早く取り戻せるよう「浜通り・中通り・会津」が一堂に会した交流の絆づくりの場として、去る十一月五日(土)、紅葉真つ盛りの喜多方市山都町森林スポーツ公園にて約三〇〇名が参加し、「ふるさとの森」絆づくりを開催しました。

「ふるさとの森」絆づくりを開催しました
うつくしま育樹祭実行委員会



復興記念植樹 (右、プロゴルファー酒井美紀さん)

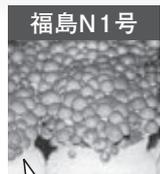


育樹作業に取り組む参加者

プロゴルファーからのメッセージによるエールの交換を行い、復興をアピールするとともに、本県出身のプロゴルファー酒井美紀さんとともにバターゴルフを楽しむなど、秋の一日を森林とのふれあいの中で大いに交流を深めました。

きのこで地域を元気に (財)福島県きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)



安定多取量



大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多取量
食物繊維、ペクチン様物質豊富



○その他各種種菌

- 菌床
 - ・シイタケ
 - ・ハタケシメジ
 - ・ムラサキシメジ等

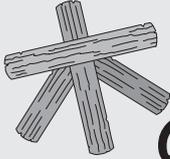
- マイタケホダ木
- 栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail:f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL:http://www.f-kinoko.org



背戸山交流センター全景

石川町の中心部からいわき市方面に向かう御斉所街道沿いに、石川町形見行政区の集会施設「背戸山交流センター」が新たに建設された。平成二二年度の福島県森林整備加速化・林業再生基金事業により整備されたこの集会施設は、平成二三年六月二日に竣工した。



の施設

No.3 背戸山交流センター

福島県林業振興課



交流室内装

延床面積は一〇四平方メートル、総木材使用量は約二九立方メートルで、そのうちの大半は町内の共有林から伐採されたスギ材を使用している。地元の木材を地元の業者が加工し、建築を担い、地元の住民のための施設をつくり、そしてまた山に木を植えて森林を再生させるという地域循環の概念が貫かれている。

構造は木造平屋で、木材の特性を生かした、板倉構法を応用した先駆的な耐力壁を採用している。この耐力壁は県内の顔の見える木材での家づくりグループである「合同会社地球と家族を考える会」により開発されたものであり、粘り強い反面、高い壁倍率が得にくいという従来の板壁の弱点を補いつつも、接合部に



上棟時（土台以外は共有林のスギ材）



性能に優れた耐力壁

は金物を一切使用していないという特徴を有する。

スギの板壁に囲まれ、木のぬくもりが感じられるような外観は、周囲の景観にも調和している。交流センター内部は、交流室のほかに、湯沸室、トイレ及び倉庫といったシンパルな間取りとなっている。通常のトイレの他に、多目的トイレも備えて

【データ】背戸山交流センター	
所在地：	石川郡石川町大字形見字漆方264番地
構造：	木造平屋建て
建築面積：	105.6㎡
延床面積：	104.0㎡
木材使用量：	29.3㎡
	（うち地元共有林からの木材使用量25.9㎡）
使用樹種：	スギ、ヒノキ
工期：	平成22年10月4日～平成23年5月26日
事業費：	21,000,000円
事業主体：	石川町形見行政区

おり、お年寄りや身体が不自由な方も安心して利用できる施設となっている。

交流室の吹き抜けの天井には、棟木と平行に木目を配置したスギ板が張られ、四二畳の広間に奥行きを与え、空間をさらに広く感じさせている。デザイン性に優れた球形の照明からは優しい光が交流室内を照らし、木の暖かみを増している。

新しいこの集会施設では、地域の集まりや、収穫祭等の各種イベントでの利用など、住民交流が盛んに行われている。今後も、地域の絆づくりの中心としてはもちろん、身近な木造建築のモデルとして、県産材利用促進につながっていくことが期待されている。

林道を訪ねて3,000kmシリーズ（第2回）



滝川西線との出会い

技術士 中村多伸

路線名	滝川西	幅員	5.0m	延長	10,628m
市町村名	東白川郡矢祭町下関河内				
開設年度	平成元年～8年	事業名	広域基幹林道開設		

1. 滝川西線との出会い

路網ネットワークの計画として、H型方式と呼称する方法を「板庭入宝坂線」（塙町から矢祭町）で実証したものを、事例として計画したもので思い出深い。福島県では従来から集水面積を利用区域として考えることが多かったし、大面積が取れる地形が多く100ha単位の路線が多くあった事情もある。一つの面に横断的に幹線的を入れ、公道からの支線を連結することにより、路網ネットワークを図り、効率的な路網配置を目指すものであった。

この考え方は、全国的な方式となり、利用区域の概念を変えるものとなった。また、茨城県と近接する路線で、他県との路網計画が検討された路線として思い出深い。

もう一つは、当時の根本町長さんと地権者の方々の、勇気と英断に深い思い出があり、その後、代行業で支援し完成したものである。



林道の待避所にあるベンチ

2. 現地の状況

① とにかく維持管理が良好で、路肩の草刈り、側溝の状況、法面の状態等々を目視して、本当に地域の方々が望んで作った林道であることがわかる。

② 待避所や車廻し等広い箇所を利用して、ベンチが設置されていて、目の風景が美しくしばらく見とれてしまった。

③ 森林の施業が活発に行われ、ヒノキの美林が形成されつつあって、森林所有者の意気込みが感じられとても感動した。

④ 終点側には集落ができて、森林に囲まれた環境の良好な家屋が羨ましくもあり、林道開設の波及効果が出ていた。

3. 技術的な課題とその現状等

① 駒止工は、本来会津地方等の積雪地帯でガードレールの代替工法として採用されてきたもので、県南地方での施工に疑問があった。県南地方の積雪量では適当ではないが、経費・景観・維持管理等を勘案して適否を判断すればよいと思う。

② ガードレールの羽根が変色しているが、腐食する心配はない。いわき市の田人町で変色箇所を手入れしているのを見たことがあり、きれいに除去されていたので参考になると思う。

③ 一部に法面崩壊箇所があったが、災害対策の準備がされているようである。

地元産山菜類の 需要拡大の取り組み

■ 県南農林事務所
林業普及指導員 佐藤 修

県では原発事故に伴い、食の安全の確保のためモニタリング検査などを実施しており、そのなかで、地元産山菜類の需要拡大に取り組む“桜乳業株式会社”（白河市）を知ることとなりましたので、その事業活動などをご紹介します。

“桜乳業”は、タケノコや山菜類の水煮製品の製造を行っています。これまでタケノコは、主に関西、九州地方から調達していましたが、平成22年より、県中・県南地方の竹資源に着目し、一部を地元産に切り替え、製造・販売を開始したところです。

また、県の補助金を活用し、平成21年には社有地にフキ苗の定植を行い、自ら農業参入を果たしています。これは、山菜類の採取者の高齢化が進み、原材料の確保が困難になりつつあることを踏まえたものです。将来、フキを40aの畑で年間約10tの生産規模に拡大することや、ゼンマイなど他の山菜類の栽培にも取り組むことを目標としています。

主要な水煮原材料であるタケノコを生む竹は成長が非常に旺盛で、地下茎を広げることで繁殖域を拡大していくほか、樹高成長には広い空間と光を必要としない特徴があり、林内の光環境を極度に悪化させます。

また、地下茎を地表下約30cmに集中させるため、雨水が地中深くまで浸透しにくくなるなど適切な森林管理を図るうえで、放置竹林及び侵入竹対策が課題となっています。

良質なタケノコを生産するため、抜き伐りなど竹林の適切な管理を図ることが、竹の繁殖域拡大抑制には有効で、森林整備とタケノコの一石二鳥の効果が期待できます。

このような期待のなか、2年目となる今年は、タケノコ買付農家の拡大を図るべく準備を進めてきた矢先の原発事故で、“桜乳業”の事業計画に大きな変動をもたらすこととなったばかりでなく、生産農家にとっても、今まで直売所での販売や自家消費に留まっていたタケノコが、大量出荷が可能となる品目になる節目の年でもあったため、残念なこととなりました。

モニタリング結果数値に一喜一憂する日々が続いておりますが、原発事故が収束し、これまでのように安心して地元産農産物や山菜類を食べられる日が一日も早く来ることを切に望むものです。



東北本線を背景に広がるフキ畑（JR白坂駅付近）



素材の価格〈工場着価格〉(9月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	8 (8~8)	0	(0~0)	0	9 (9~9)	0	8 (8~9) △1
		10~13		並	スギ	11 (10~12)	0	9 (7~11)	0	11 (11~11)	2	10 (7~12) 0
	中	14~18	3.00	並	スギ	12 (12~13)	1	10 (10~11)	0	11 (9~13)	1	11 (9~13) 0
				並	ヒノキ	19 (15~24)	0	(0~0)	0	17 (17~17)	1	18 (15~24) 0
		6.00	並	スギ	20 (16~24)	0	(0~0)	0	15 (14~16)	1	18 (14~24) 1	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(0~0)	0	20 (15~26)	0	22 (15~26) 1	
	20~28	3.65	並	スギ	13 (13~14)	1	12 (12~13)	0	12 (11~13)	1	13 (11~14) 1	
		4.00	並	スギ	10 (9~13)	0	(0~0)	0	9 (9~10)	0	10 (9~13) 0	
		1.80	並	アカマツ	7 (5~10)	0	(0~0)	0	9 (9~9)	1	8 (5~10) 1	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	23 (23~23)	0	(0~0)	0	24 (24~24)	0	24 (23~24) 0
並				米マツ	26 (24~28)	0	26 (26~26)	0	24 (23~25)	0	25 (23~28) 0	
28以下		3.80	並	エゾマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	23 (23~23)	0	23 (23~23) 0	
			並	ベニマツ	27 (27~27)	0	(0~0)	0	19 (19~19)	△4	23 (19~27) △2	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0) 0
				並	アガチス	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0) 0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0) 0	
			並	広葉樹	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0)	0	(0~0) 0	

八月の原木市場への入荷状況は、前月比二一%減(前年比二七%減)の一五、〇三二立方メートルとなっている。販売量については、前月比八%減(前年比一九%減)の一五、九九一立方メートルとなっている。年明けの取扱量は前年比増で推移していたが、震災以降は取扱量が落ち込み、平成二三年一〜八月の取扱量は前年比で入荷量七%減、出荷量六%減となっている。九月の価格については、強気配である。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(9~10)	0	9 (8~9)	0
	13~14		並	カラマツ	9 (8~9)	0	8 (7~9)	0
	16以上		並	カラマツ	10 (10~11)	0	11 (10~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

城山の規模は東西三五〇メートル×南北四〇〇メートルほどで、頂上には本丸跡と火防愛宕神社を、鬼門にあたる東側には郷社都々古神社や御正体鏡板(国重要技術品)があり、城域には舍利石塔(国指定史跡)や南須釜念仏踊り(県重要無形文化財)で有名な東福寺があります。城の北西には須賀川から母畑・石川に繋がる街道があり、街道筋を監視・守備する機能もあつたことから、政治上も宗

玉川村は、東日本大震災に加え台風十五号により阿武隈川堤防が決壊し、一部の地区が水没するなど甚大な被害を受けました。こうした中、地域の有志が立ち上がり「大寺城跡」の再整備を期に村に元氣を取り戻そうとする取組みが進められています。大寺城は比較的大規模な山城で(標高四〇五メートル)、一〇五七年に石川有光氏が中世石川氏の拠点城郭として整備し、以来山麓には多くの人々が移り住み、中腹には家老屋敷が建てられるなど賑やかさを呈しましたが、一五八九年伊達政宗来攻の際、一階堂氏との確執から破却され五〇〇年余に亘る繁栄は失われました。



「大寺城の繁栄とこれから」

県中農林事務所 木村 憲一郎

教上も重要な地点だったことを窺い知ることが出来ます。

中腹の駐車場から十分ほど歩くと杉や樺の太木が根を張った山頂に到着し、そこからは県央や遠く那須の山々、福島空港、周辺仏閣群を一望することができ、城跡が地区の皆さんから愛されている理由がよく分かりました。今年度、地区では森林環境交付金を活用し桜の植樹や現地発生材を利用したベンチなどを設置する予定です。

皆さんには生まれ変わった大寺城跡には是非お越しいただき、城跡にかつての賑わいが再び戻り、震災の復旧復興につながっていくことを期待しています。



大寺城跡遠景

木連だより

樹皮等の取扱いに関する動向について
(続報)

林業福島十月号で報告したとおり、放射性物質の影響による樹皮の出荷制限により木材業界はますます苦境に立たされています。

国による樹皮等の規制

- (1) 木材製品等（原木・製材品）
 - 平成23年6月28日林野庁質疑応答集
表面線量100,000cpm
- (2) 樹皮
 - ① バーク堆肥
 - 平成23年8月1日農水省消費安全局通達
使用基準値400 $\mu\text{Sv}/\text{kg}$ （製品重量）
 - ② 家畜敷料
 - 平成23年8月23日農水省生産局通達
暫定許容値として400 $\mu\text{Sv}/\text{kg}$ （製品重量）
条件により最大1,000 $\mu\text{Sv}/\text{kg}$
- (3) きのご原木及び菌床用培地
 - 平成23年10月6日農水省生産局、林野庁通達
当面の指標値・きのご原木 150 $\mu\text{Sv}/\text{kg}$ （乾重量）
・菌床用培地（おが粉等に栄養材として米ぬか等を加えたもの） 150 $\mu\text{Sv}/\text{kg}$ （乾重量）
- (4) 調理加熱用の薪及び木炭
 - 平成23年11月2日林野庁林政部通達
当面の指標値 薪 40 $\mu\text{Sv}/\text{kg}$ （乾重量）
木炭 280 $\mu\text{Sv}/\text{kg}$ （乾重量）



1 遠野興産株の動き
県内から生産される樹皮の約三分の二を集荷・加工している遠野興産株が非常に厳しい状況に陥っています。

① 樹皮の集荷
現在集荷している南台地区の住民から、異臭や汚染水のため他への移動を求められており今後の集荷集積困難になったことから、十一月一日より原則、集荷を停止した。

② 木質バイオマス発電施設の新規建設破たん
計画していた当施設について、焼却灰の処理や他地域からのバークの集荷等を懸念した地元いわき市が消極的姿勢を示しており早期の建設が困難となった。

③ 洗浄作業
樹皮の放射能を少しでも低減し、バーク堆肥用へ出荷できる様にと丸太と樹皮の洗浄を実施している。

2 東京電力(株)への要請と回答
(一) 平成二十三年十月二〇日(木)、県木連と県森連では東電社長宛に次の要請文を提出し誠意ある対応を求め、その後社員等と協議を行いました。

〈要請項目〉

① 石炭火力発電所における樹皮等木質バイオマスの燃焼
東京電力(株)が主体的に運営している石炭火力発電所の混焼材料として樹皮等の使用を検討し、早急な実施をお願いしたい。

② 焼却灰の保管
民間のバイオマス発電施設等から発生した焼却灰を石炭火力発電所から発生した焼却灰と同様に保管処理してほしい。

③ 樹皮の保管場所(仮置き場)の確保
東京電力(株)の責任においてチップ工場等に滞留している樹皮の保管場所(仮置き場)を確保してほしい。

※予想通り、東電からは出来ない理由をあげて前向きな回答はなかったことから十月三十一日まで文書での回答を求めた。

(二) 文書での回答内容(※原文のまま)
○石炭火力発電所における樹皮等の木質バイオマスの燃焼について
当社の石炭火力は樹皮等を焚くようには設計されておらず、混焼するためには、性状確認、燃焼シミュレーション等の机上検討や燃焼試験、設備改造が必要であり、そのため期間や費用、設備改造等に伴う設備停止も必要となります。

また石炭火力では、発電に伴い大量に発生する石炭灰や石膏を安定的な処理ができない場合、設備停止につながるおそれがあります。
現状の弊社サービスマス区域内の電気の需給状況を踏まえると、安定供給に支障をきたすおそれがあることから、実施は困難であると考えており

ます。
○焼却灰の保管処理、樹皮の保管場所の確保、発電所での保管について
放射性物質に汚染された廃棄物の処理については、放射性物質汚染対処特措法が八月三〇日に公布、一部施行されており、今後この法律に従い、処分等が進められるものと考えております。弊社と致しましては、本法律の枠組みのもとで、廃棄物に関する諸策に協力して参りたいと考えております。

なお、廃棄物の保管場所の提供・処分場の確保については同様のお申し出を多数頂いており、個別のご要請にお応えすることは極めて困難な状況であり、何卒ご容赦願います。
○樹皮等の木質バイオマスの専焼施設や仮置き場の新設について
弊社では、現在、福島第一原子力発電所事故でご迷惑をお掛けしている被災者の皆様へ誠意ある賠償を行うため、不動産の売却や事業の整理に加え、代表取締役の報酬返上や職員給与の引き下げなどあらゆる方策により資金を捻出しており、専焼施設や仮置き場の新設というようなご要請にお応えできる状況ではございませんので、何卒ご容赦願います。



仮置き場に積み、発酵する樹皮

森連だより

チェルノブイリを調査して

代表理事会長
國井 常夫



三月十一日に発生した大地震は私達がかつて経験した事がない大きな出来事でした。さらに原発事故が発生し県民に大きな衝撃を与えました。私達森林組合も地震、原発事故が重なり業務は麻痺状態となり、避難区域では作業停止となりました。私はこれから福島県の林業を守るにはみんな力を合わせて進む事が大事であると考えました。

そのような時に、福島大学副学長の清水先生が団長でチェルノブイリ原発事故調査団が結成されるとお聞きし、先ず原発事故のあったウクライナのチェルノブイリ原発事故を自分の目で見るが必要だと考え、森林林業調査をするために無理に参加させていただきました。素晴らしい三〇人の団員の皆さま方と一緒に調査に参加させていただきます感謝申し上げます。チェルノブイリでの調査では、放射

能汚染による森林への影響をどのように考えられているのか、ベラルーシ、ウクライナ両国の関係者からお話を聞くことが出来ました。日本とウクライナとは、国情が違い、一九八六年四月二六日チェルノブイリ原発事故当時はソビエト連邦時代でした。山林は全て国有地ですから、国の考えで総て管理運営されております。チェルノブイリ原発事故の避難区域内の森林地域は全て立ち入り禁止となっておりますが、チェルノブイリ原発から一〇キロ圏内にある通称「赤い森」をこの目で見る事が出来ました。高い放射能に汚染され枯死した松が赤く見えたので「赤い森」と呼ばれています。枯死した森林は伐採され、土の中に埋め立てられました。それだけ森林も放射能に汚染されたということですが、伐採された後地には新たに松が植林されており

森林は枝葉や樹皮に多くの放射性物質が含まれているといわれます。ウクライナとは違い福島県の避難区域の森林は民有地です。先祖代々引き継がれた大事な山林です。植林から長い歳月を架けて森林を育ててきました。原発事故以後、森林所有者は自分の森林に入ることが出来ません。こんな悲しい事がありますか。ウクライナの森林は国有林ですが、私達の森林は個人個人の所有林であり、それぞれが大変な森林投資をして来ました。また、森林で今まで働いていた皆さんは職を失いました。警戒区域等にある二森林組合は組合活動ができません。私達森林組合系統は、あらゆる林業関係の損害賠償を東京電力並びに国に対して求めていく考えで行動していきます。

今回の調査で私は、チェルノブイリは原発事故以後二五年過ぎても今もなお放射能が高く、人間が生活を営む環境に戻すには、遠い、遠い先になる事を感じました。福島とチェルノブイリで起きた原発事故ですが、それが大きい小さいかではなく、放射線が高いか低いか、そこに人間が住んで人体に対して問題があるのか、ないのかだと思いました。

ウクライナでは、事故前の平均寿命が七五才であったが原発事故後六五才

まで減少しました。特に高齢者の死亡率が高くなったと聞きました。この要因は、放射線による汚染とストレスが長期化したことによるものです。また、多くの人達が海外に流出し、国全体では一九九一年の五二〇〇万人から二〇一〇年には約四五〇〇万人に人口が減少したとも聞きました。

今回、林業関係だけでなく幅広く現地の調査に参加し、ウクライナの現状を見て、福島県が、双葉地方がこれからの進む道はチェルノブイリを参考に、地域住民の健康と幸せを何よりも優先した長期的な対策が必要だと強く感じて帰国しました。



チェルノブイリの「赤い森」の現状



優秀賞「下刈り作業」



優秀賞「突貫作業」



特別賞「暖・薪ストーブ」



優秀賞「特用材産物」

林協ニュース

第8回
ふくしま森林・林業
写真コンクール

入賞者決定!

最優秀賞
「里山の冬支度」
(今月号の表紙)



当協会主催、及び、福島県、福島県森林組合連合会、福島県木材協同組合連合会、(社)福島県緑化推進委員会、福島県農林種苗農業協同組合、(独)森林総合研究所森林農地整備センター、福島水源林整備事務所、(財)ふくしまフォレスト・エコライフ財団、(社)福島県林業公社、(財)福島県きのこ振興センター、(財)福島県林業会館、福島県林業経営者協会後援による、第八回ふくしま森林・林業写真

《第8回ふくしま森林・林業写真コンクール入賞者》
※応募総数76点

賞	タイトル	氏名	住所
最優秀賞 (県知事賞)	「里山の冬支度」	田崎 栄一	柳津町
優秀賞 (県林業協会会長賞)	「突貫作業」	根本 晴夫	白河市
	「下刈り作業」	佐藤 源策	郡山市
	「特用材産物」	原田 和夫	伊達市
特別賞 (県林業会館理事長賞)	「暖・薪ストーブ」	鈴木 芳子	郡山市
入選	「放射能(あくま)から森の実(いのち)をまもりたい」	大沼 未季	伊達市
	「チェンソーアート(林業祭)」	金子 茂	本宮市
	「杉の林に守られて」	小林 正義	石川町
	「気合一発」	鈴木 透	郡山市
	「職人の技」	鈴木 治蔵	北塩原村
佳作	「木のぬくもり」	広野 資郎	南会津町
	「木の温もりに和む」	佐藤 俊子	郡山市
	「山仕事を終えて」	阿蘇 周重	福島市
	「楽しい森林教室」	市川 明	福島市
	「斜光」	栗村 健治	会津若松市

コンクールが開催されました。七月から十月十四日(金)まで作品を募集し、七六点の応募がありました。平成二三年十月二七日(木)に高橋良雄氏(県写真連盟)を審査委員長に、審査委員会が行われました。森林・林業・木材とのかかわりや森林整備作業などのテーマに沿って表現されているか、などについて審査した結果、最優秀賞(県知事賞)には、田崎栄一さん(柳津町)の「里山の冬支度」が選ばれました。

田崎さんの作品については、「冬に向けて黙々と一人で頑張っている、そして力強さが感じられる雰囲気にも仕上がっていて、人物の位置や構図も適切で最優秀賞にふさわしい写真です。」との審査委員長の評が

ありました。さらに、優秀賞(県林業協会会長賞)三点、特別賞(県林業会館理事長賞)一点、入選五点、佳作五点が選ばれました。

大沼未季さん(中学生)の応募用紙に、「毎年里山で木の実を拾うのが楽しみです。」とのコメントが印象的でした。

入賞作品は、平成二三年十一月二一日(月)～三〇日(水)まで、福島県庁本庁舎二階連絡通路にて展示されました。



県庁本庁舎2階連絡通路の展示の様子



快適な生活の先には

街路樹が葉を落とし、緑が少なくなった師走の街に乾いた足音が響く。東日本大震災と東京電力原子力発電所事故などを受けての節電の意識の高まりからか、郡山市内のイルミネーションの数は例年より少なく感じられ、規模も縮小されている様に見える。

ところで最近、毎日の様に早朝に起きて外を見るのが癖? になっている。これは写真撮影を始めた時期と重なるので、天候確認の習慣の延長ではないかと思っている。

十二月に入った早朝、障子戸を開けるとガラス戸越しに小鳥達の吐く息が白く見え、すっかり葉を落としたウメモドキとナンテンに餌を求めて集まり賑わっていた。

万葉集に詠まれた安積山(額取山)も八合目位まで雪に覆われ、街に雪が下りてくるのも時間の問題と思われるが、セシウムなどに汚染された雪の除雪対策に頭が痛い。

話は変わるが、市内にオール電化の家庭が増えている。電化は時間にゆとりを提供し、労働力軽減などで生活をエンジョイできるなど恩恵が多いが、原発事故発生以降県民の原発に対する拒絶反応は強まりを見せている。電気万能の時代に逆行する様な現象であるが電気のない生活は絶対に有り得ないので、自然エネルギー等の開発が急務となっている。

私は以前から原発地域の知人に、原発は地域経済を潤すが、一旦事故が起きると生命の危険は勿論、故郷を追われる事態にもなりかねない。と話をしたら、彼は真顔で、国が安全安心と広報し、原発を推進しているので心配はしていない。と言っていた。その彼が今回の事故を受け家族で県外へ逃れ、不自由な生活を送っていると思うがどんな心境だろうか。

子供の頃、水を汲んで風呂を沸かすのが私の担当だったが、何の不安も無かった事が懐かしく、快適な生活の先には想像に絶する魔物が棲んでいることを思い知らされた。

現在、本県で安全宣言が出ていた米がセシウム問題で大問題になっている。県内の一部地域の問題ではあるが原因究明と対策を急ぐ必要がある。また、国や東電の被災者に対する補償が遅いが、厳しい冬を迎えた人達に対し暖かい対応が急がれている。

佐藤微風

表紙の写真



里山の冬支度

第8回ふくしま森林・林業写真コンクールで、最優秀賞を受賞した田崎栄一さん(柳津町)の作品。

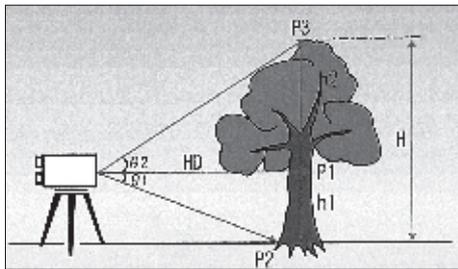
編集

発行

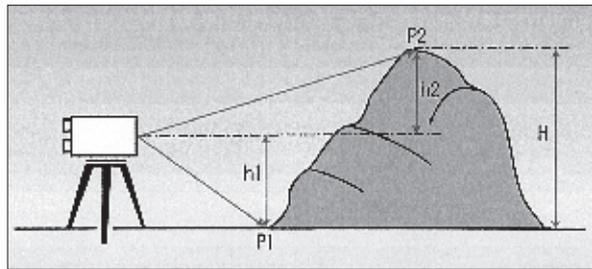
福島県内四森林管理署
 福島県林業協会
 福島県木材組合連合会
 福島県緑化推進委員会
 福島県農林種苗農業協同組合
 福島県林業公社
 森林総合研究所福島水源林整備事務所
 福島県林業協会
 福島市中町五番一八号県林業会館内
 渡辺卓
 陽光社印刷株式会社
 (定価 六三円)

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合

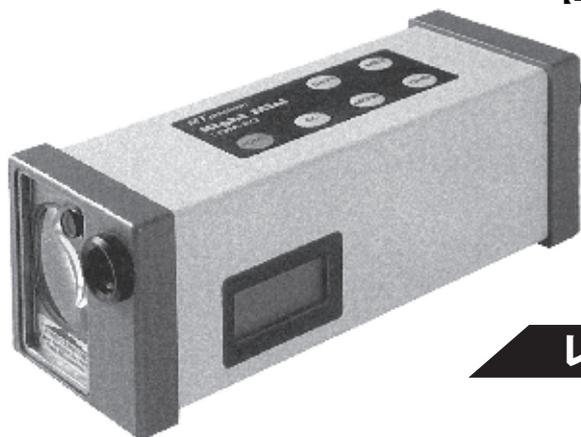


2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	± 5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

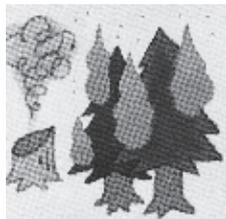
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



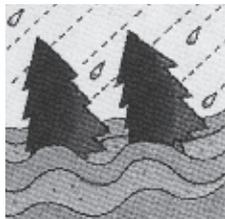
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



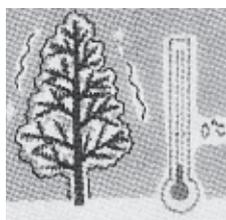
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

- ◆ 県内各森林組合
- ◆ 福島県森林組合連合会

又は 県庁森林保全課
TEL 024-521-7441

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP
森と人と地球

自然との調和

(私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。)
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生動物から大切な植栽木を守る

ツリーセーブ
ヤシマレント

盗みされ防止

ハチノックL (綱隠し)
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る
ヤマの林業薬剤**

ヤシマスマイバイン乳剤
ヤシマスマイバインMC
グリーンガードエイト
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートSC
マツグリーン液剤2

くん蒸用生分解性シート

ちゆらシート (茶・白)
NCSシート (透明)
与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリアバック使用)

住化グリーン株式会社

本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4丁目5番4号
東北営業所 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央3丁目10番3号 泉セントラルビル202号室

TEL.03-3523-8070 FAX.03-3523-8071
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**
世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ

G2000T

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**
さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ

G4211EZ

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを
追求したハンドルと
思いのアクセルワークが
可能なトリガーレバー。

BC2711DW1-EZ

- ・防振ハンドルブラケット
- ・トリガーレバータイプ

チップソー ¥79,380(税込)
笹刈刃 ¥78,330(税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1